

代表者 3C 兎澤 健佑・坊川玲穂

指導者 飯塚 俊介

はじめに

グループ構成は3年生2名、2年生8名の10名。鉦工業領域のなかで、世界を目指すような企業を調べることで、この分野から地域発展のヒントを探することを目的に調査・研究活動を行った。

I テーマ設定の理由

新興国や途上国が急速な成長を遂げ、ヒト・カネ・モノ・情報の流れが、未曾有の広さと速さで、世界に及んでいます。国内でも、グローバル化は地方においても不可避のトレンドで地域発展のために挑むべき方向性でもあります。これは「地方から世界への飛躍」という経済産業省から出された中堅・中小企業向けの資料の一文である。

私たちは「工業で世界を目指すために必要なことはなにか」をテーマに、地方から全国、地方から世界に目を向けるために必要な要素を考えることにした。その会社の技術力や人材など企業のもっている強みをどのように生かして事業展開しているのかを知るとともに、他の工業領域分野で調べたことをあわせて地域発展の方法を考えていきたいということが本講座の設定理由である。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
(鉦工業領域・個別テーマごと)
- 2 班編成と企業選択
「工業で世界を目指す」というテーマで思い浮かべる鹿角の企業を1つ決める。
- 3 班ごとの調査・資料収集
- 4 企業見学
10/10(火) … 青山精工の施設見学
- 5 班ごとのまとめ

III 実践内容

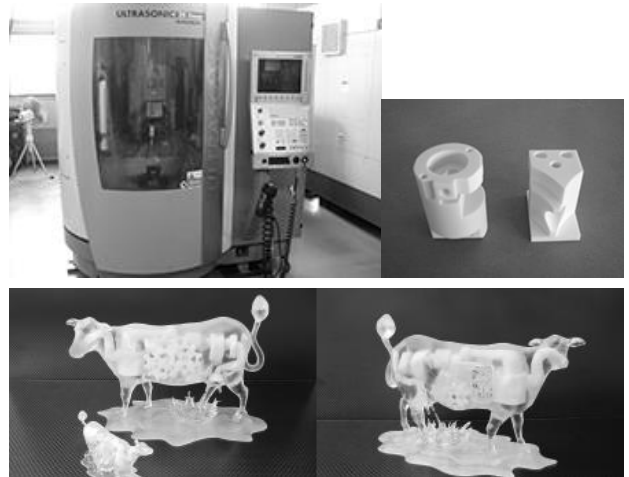
以下は班ごとに調べた会社の概要である。

●株式会社青山精工

(3C 兎澤健佑・3C 坊川玲穂)

- ・平成2年設立
- ・従業員数47名(鹿角本社・神奈川営業所)
- ・会社概要

主な事業は精密機械加工、難削材微細加工などである。特にセラミックスなどの硬脆性材の加工に力を入れ、他社にできない技術をもっていることが、この会社の強みになっている。取引先は100社以上あり、青森や関東地方が主な取引先で、最近では海外にも目を向けた事業展開を行っている。

**●山口電機工業株式会社**

(2C 阿部悠輔・2C 阿部瑞樹)

- ・昭和21年設立
- ・従業員数125名(東京本社・秋田工場)
- ・会社概要

自動車・特装車などの電装品を、部品メーカーとして世界各国に供給している。YECバックアラムやバックブザーは国内随一の品揃えで、カタログ品をベースにした特注品開発も顧客からの要望に応えるなど厳しい品質管理のもとで製造している。特に県下唯一の無響室・遮音室・耐熱耐寒試験機など多くの設備を備えていることがそれらを可能にしている。



↑バックアラム（山口電機工業）

●株式会社浅利佐助商店

（2 B 高田悠平・2 B 嵩智貴）

- ・明治5年創業、昭和26年株式会社に改組
- ・従業員数45名
- ・会社概要

明治5年創業で、長い間一貫して「みそ」・「しょうゆ」を作っており、県内はもちろん、青森・岩手・宮城・遠くは九州まで広く営業展開している。安心・安全・おいしい商品を届けるために仕込みから販売までを一貫して行っている。それを支えているのは、100年余り培われてきた伝承の技と味があるからで、これがこの会社の強みと考える。



●株式会社かづの観光物産公社

（2 B 石川皓也・2 B 大里彩）

- ・1994年設立
- ・会社概要

道の駅「あんたらあ」を運営する企業。花輪ばやしの屋台を展示したり、鹿角の伝統に培われた食品や工芸品を間近で見たり、体験を通して鹿角の魅力を全国に発信しようとしている。また、外国人観光客に向けた観光案内のため、外国語のパンフレットを作成するなどの工夫もしている。



●小坂製錬株式会社

（2 B 菩提野勇人・2 C 田畑知紘）

- ・明治17年創業、平成元年設立
- ・従業員数311名
- ・会社概要

世界一の複合リサイクル製錬所と環境に配慮した企業を目指している。2007年にTSL炉が完成し、リサイクル原料の使用比率を100%にすることが可能になった。国内外から毎日運ばれてくる廃電子基板類から、金銀等の貴金属、レアメタルなど約20種類の元素を回収して製品化している。



IV 評価（まとめと今後の課題）

青山精工のセラミックス加工の技術は特殊な機械をもつことで可能になった会社の強みである。また、小坂製錬でもTSL炉を完成させることで、銀やビスマスの生産量で国内トップクラスを誇っている。山口電機工業でも品質管理の設備を整えることで、バックアラムの品揃えを他社以上に揃えることができていることを知った。また、青山精工の施設見学でインタビューした際、“他社ができないもの”、“他の人ができないもの”“をもつことが大切であり、常に先を見通して行動することが必要である”という話を聞いた。今回の研究を通じて、交通網や情報ネットワークが整った現在では、他社にない設備や技術をもつことで鹿角の地から日本中に商品を届けることは難しいことではないと分かった。地元の企業が協力し、また働く人が技術を高めることで工業分野からこの地域を盛り上げることはできると感じた。